

はじめに

「なんだろうコンクリート」の題名でコンクリート工業新聞に連載を始めたのは、永い歴史を有するコンクリート技術であるにもかかわらずコンクリートの問題が次々に現れてきたからです。

連載を続けるうちに、多くの読者から「共感する」、「同感である」とのご意見を頂き、さらに続けて20回に至りました。この連載をまとめてはどうかの勧めにお応えし、文章を見直し、若干の追加を加えて刊行の運びとなりました。刊行に際して、文献を引用させて頂いた方、図・表の作成にご協力頂いた皆様に感謝いたします。

近代コンクリートの歴史は、世界では200年に達せんとし、我が国ではすでに100年を超えています。にもかかわらずコンクリート技術が成熟していないのは、天然材料を扱う世界の宿命とも言えますが、コンクリートは工業製品とも言える部分があり、我々技術者の努力不足と反省もしております。

丁寧に打ち込んでいた時代のコンクリートが今に残っている事実と、予想以上に早く劣化してしまったコンクリート構造物のある事実を素直に見つめ、現状の技術の存在を認めながら、できることを確実に行うことが必要と思います。

より信頼されるコンクリートを目指して、製造者、施工者、設計者はそれぞれ何をすればいいのかを考えていきましょう。真剣にコンクリートの製造・施工・設計に取り組んでおられる技術者の皆様にとって、その努力が報われる環境となることを期待してやみません。そのために本書が何らかの参考になれば幸いです。

2002年8月

著 者